



正しい方向へ

この授業で一番印象に残ったのが、子ども達の姿の良さです。上の写真は授業が始まる直前です。気持ちの切り替えの指示が出た時の子ども達の様子なのですが、それまでの賑やかな雰囲気が一変して、姿勢を正した真剣モードに入りました。職員が大勢参観していますから、いつもより気合が入っているのでしょうか、いつもやっていないでこの時だけこの雰囲気を出すことはできません。それでいて、別にピリピリした緊張感はないのです。とても良い雰囲気です。

教材は「いろいろなふね」。いくつかの種類を、その「役目」「造り」「できること」の構成で説明している説明文です。客船、フェリー、漁船、消防艇の順番で書かれており、同じ構成で少しずつ言い方を変えてあります。子ども達は、この文章を読むことを通して、役目とはこういうもの、そしてこんな言葉を使って述べてあるということを知っています。

今日の授業は三つ目の漁船の説明の部分です。最初に漁船を説明する動画を見ました。ここでもいいのですよ、子ども達の様子が。驚き、感心、面白い、納得等々、見た時の感情が素直な「えー!」「すごい!」「うわー」など様々な声が上がります。その微笑ましい様子を見ているとこちらまで楽しくなります。

次に音読です。今まで動画を見ていた雰囲気は一変し、姿勢を正して、本を立てて読みます。沖教諭もその姿勢ができるまで待ちます。その間数秒、今から集中して音読する空気になりました。漁船の段落をみんなで声高らかに読みました。

今週は一年生の研究授業の模様をお伝えします。一年三組の国語の授業です。授業者は、担任の沖佑美子教諭。教職十一年目の中堅です。この授業で一番印象に残ったのが、子ども達の姿の良さです。上の写真は授業が始まる直前です。気持ちの切り替えの指示が出た時の子ども達の様子なのですが、それまでの賑やかな雰囲気が一変して、姿勢を正した真剣モードに入りました。職員が大勢参観していますから、いつもより気合が入っているのでしょうか、いつもやっていないでこの時だけこの雰囲気を出すことはできません。それでいて、別にピリピリした緊張感はないのです。とても良い雰囲気です。



他にも学び方を学ぶ取組はありました。ペアによる意見交換です。先生の問いに対する自分の考えを友だちとお互いに出し合うことにより、新たな考えに気づいたり、自分の考えにより自信を持ったり、二人の意見をうまくまとめたりしていきます。また、コミュニケーションの在り方そのものを学ぶ機会にもなります。言い方を考えたり、考えの相違点を建設的にまとめたり、意見交換によって学ぶことはものすごく多いです。そして、このような意見交換によって全員の納得解をもとめるような力が、今は最も求められています。

全体の発表の場では、全員が発言する人の方を向きます。まさに徹底です。さらには、教科書の学びの跡です。サイドラインが引かれ、内容で色分けし丸シールが貼られています。ただの丸シールですが、子どもたちは嬉しそうに貼ります。

教科的な観点から見れば、今回の授業の改善点は当然あると思うのですが、もっとこうすれば子どもの理解が深まったとか、より活発に意見が出たろうとか、課題は様々あって、それを厳しくも温かく、かつ又ケ又ケと指摘するのが本校職員の良いところです。

しかし、今回の授業は「学ぶ」ことへの感覚やスキルを身につけさせるための取組や工夫がたくさん見られました。それは、沖教諭が日常から徹底して取り組んでいることを裏付けていました。一年生で身につけるのは学び方の基礎です。今身につけた学び方が、生涯学び続ける子どもたちの将来を大きく方向付けていきます。スタートでの方向のズレは、年を重ねるごとに大きなズレになり修正が難しくなります。時には厳しい指導もあるでしょうが、子どもを正しい方向に育てることは学校、ひいては大人の責任です。

自身も絶賛子育て中にある沖教諭のバイタリティや指導力、そして、この八ヶ月あまりでの一年生のすばらしい成長ぶりに感服した授業でした。

